



2018年11月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2018年7月4日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社エスプール
コード番号 2471 URL <http://www.spool.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 浦上 壮平
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部担当 (氏名) 佐藤 英朗 TEL 03-6859-5599
四半期報告書提出予定日 2018年7月11日
配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無：有
四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2018年11月期第2四半期の連結業績（2017年12月1日～2018年5月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2018年11月期第2四半期	6,865	28.8	463	76.6	468	76.3	303	74.6
2017年11月期第2四半期	5,329	24.0	262	6.0	265	10.3	173	△13.5

(注) 包括利益 2018年11月期第2四半期 303百万円 (74.5%) 2017年11月期第2四半期 173百万円 (△13.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2018年11月期第2四半期	19.24	19.19
2017年11月期第2四半期	11.42	11.05

(注) 当社は、2018年3月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2018年11月期第2四半期	4,890	1,716	34.9	108.24
2017年11月期	4,493	1,473	32.5	92.54

(参考) 自己資本 2018年11月期第2四半期 1,708百万円 2017年11月期 1,459百万円

(注) 当社は、2018年3月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり純資産」を算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2017年11月期	-	0.00	-	18.00	18.00
2018年11月期	-	0.00	-	-	-
2018年11月期（予想）	-	-	-	5.00	5.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2. 当社は、2018年3月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。2017年11月期については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

3. 2018年11月期の連結業績予想（2017年12月1日～2018年11月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,587	16.2	814	20.7	802	16.7	468	10.7	29.70

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 当社は、2018年3月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。2018年11月期の連結業績予想における1株当たり当期純利益については、当該株式分割の影響を考慮しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2018年11月期2Q	15,780,500株	2017年11月期	15,767,000株
② 期末自己株式数	2018年11月期2Q	645株	2017年11月期	645株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2018年11月期2Q	15,773,328株	2017年11月期2Q	15,226,855株

(注) 当社は、2018年3月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料の「1. 当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法)

当社は、2018年7月4日(水)にアナリスト向け説明会を開催する予定です。

その模様及び説明内容については、当日使用する決算説明資料とともに、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、半導体関連を中心に製造業の設備投資が堅調で国内景気については緩やかな拡張傾向が続いております。一方で、雇用情勢については引き続き企業からの求人数が高止まりしており、厚生労働省が発表した2018年4月の全国の有効求人倍率は1.59倍と、1974年1月の1.64倍以来およそ44年ぶりの高水準で推移しております。従来から人手不足感の強いサービス業に加え、製造業や建設業でも求人が増加してきております。また、総務省が発表した4月の完全失業率も2.5%と低い水準を維持しており、完全雇用に近い状態にあります。

当社グループにおいても、このような雇用情勢を背景に人材派遣サービスが引き続き順調に拡大したほか、障がい者雇用支援サービスの売上についても大きく伸長しております。一方、損益面においては、事業規模拡大に伴って人件費を中心に販売費及び一般管理費が増加したものの、前述の増収効果により営業利益が増加しております。なお、当連結会計年度においては、環境変化に強いバランスの取れたポートフォリオ経営の推進のために、①安定した収益基盤の構築、②新たな収益機会の獲得、③多様な働き方と生産性向上の実現の3点を基本方針として事業を推進していく所存であります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は6,865百万円（前年同四半期比28.8%増）、営業利益は463百万円（前年同四半期比76.6%増）、経常利益は468百万円（前年同四半期比76.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は303百万円（前年同四半期比74.6%増）となりました。

2018年11月期第2四半期連結累計期間 連結業績

(単位：百万円)	2017年11月期 第2四半期	2018年11月期 第2四半期	増減率
売上高	5,329	6,865	28.8%
営業損益	262	463	76.6%
経常損益	265	468	76.3%
親会社株主に帰属する 四半期純損益	173	303	74.6%

当第2四半期連結累計期間のセグメント業績（セグメント間内部取引消去前）は以下のとおりであります。

①ビジネスソリューション事業

ビジネスソリューション事業では、シニアや障がい者など潜在労働力の活用を支援するサービスや、企業の業務の一部を受託するアウトソーシングサービスを提供しています。前者においては、株式会社エスプールプラスが、障がい者雇用を希望する企業に同社が運営する農園を貸し出し、主に知的障がい者を企業が直接雇用し、収穫した野菜を従業員の健康促進に役立てる福利厚生プログラムの提供を行っています。また、株式会社エスプールでは、様々な経験やノウハウを有するシニアを、企業の経営課題や業務課題の解決に役立てるプロフェッショナル人材サービスを提供しています。

後者のアウトソーシングサービスでは、株式会社エスプールロジスティクスが、通販企業の商品の発送代行サービスや海外販売を支援する越境ECサービスを提供しています。また、株式会社エスプールセールスサポートでは、対面型の会員獲得や加入促進等のセールスプロモーション業務、キャンペーンやラウンダー等の販売促進業務を行っています。その他、株式会社エスプールでは、主にアルバイトやパートの採用募集に対する応募者対応を代行する採用代行支援サービスを行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、2017年11月末に撤退したスマートメーター設置業務の売上がなくなりましたが、障がい者雇用支援サービス等が好調に推移した結果、売上が大きく伸ばしております。障がい者雇用支援サービスについては、2018年4月の障害者雇用促進法改正をきっかけに、農園の新規参画が急増したほか、継続収入となる農園利用料が大幅に増加しております。また、ロジスティクスアウトソーシングサービスでは、発送代行サービスの売上が順調に伸びており、品川に大型の物流センターを新たに開設しました。一方で、損益面では、品川物流センター新設の先行費用負担が発生しましたが、相対的に利益率の高い障がい者雇用支援サービスの増収効果によりセグメントの営業利益率が改善しました。その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,046百万円（前年同四半期比17.0%増）、営業利益は410百万円（前年同四半期比55.8%増）となりました。

②人材ソリューション事業

人材ソリューション事業は、人材派遣、人材紹介サービスを主力とする株式会社エスプールヒューマンソリューションズが提供するサービスで、コールセンターや事務センター等のオフィスサポート業務と、スマートフォンや家電製品等の店頭販売支援業務に関する人材サービスを展開しております。

当第2四半期連結累計期間においては、前述の通り企業の人材不足感が継続しており、主力のコールセンター業務、特に複数拠点を展開している北海道や九州のヘルプデスクやサービスセンター業務のコールセンターにおいて売上が増加しております。損益面においては、社会保険料負担の増加等により売上総利益率が若干低下したほか、拠点数の増加や業容拡大に対応した組織面の強化により人件費を中心に販売費及び一般管理費が増加しておりますが、増収効果により営業利益は増加しております。その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は4,872百万円（前年同四半期比35.7%増）、営業利益は483百万円（前年同四半期比41.1%増）となりました。

2018年11月期第2四半期連結累計期間 セグメント別業績

売上高（単位：百万円）	2017年11月期 第2四半期	2018年11月期 第2四半期	増減率
報告セグメント	5,340	6,918	29.6%
ビジネスソリューション事業	1,748	2,046	17.0%
人材ソリューション事業	3,591	4,872	35.7%
調整額	△10	△52	－%
合計	5,329	6,865	28.8%

営業利益(単位:百万円)	2017年11月期 第2四半期	2018年11月期 第2四半期	増減率
報告セグメント	605	893	47.5%
ビジネスソリューション事業	263	410	55.8%
人材ソリューション事業	342	483	41.1%
調整額	△343	△430	－%
合計	262	463	76.6%

(2) 財政状態に関する説明

①資産

当第2四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末から21百万円減少し、2,947百万円となりました。人材ソリューション事業を中心とする売上の増加により売上債権が272百万円増加しておりますが、一方で障がい者雇用支援事業の農園建設を中心とした投資活動による支出等により、現金及び預金が260百万円、繰延税金資産の減少により流動資産のその他が31百万円、それぞれ減少しております。

当第2四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末から418百万円増加し、1,942百万円となりました。障がい者雇用支援サービス拡大のため、株式会社エスプールプラスにて柏第二ファームやちば花見川ファーム等の農園を建設しており、また、株式会社エスプールロジスティクスにて新たに品川物流センターを開設しており、有形固定資産が370百万円増加しております。

②負債

当第2四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末から110百万円増加し、2,806百万円となりました。納税資金のために短期借入金を200百万円借り増ししておりますが、各種支払のため、流動負債のその他に含まれる未払消費税等が77百万円、未払金が74百万円、それぞれ減少しております。一方で、業容拡大に伴って未払給与を中心とする未払費用が74百万円増加しております。

当第2四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末から43百万円増加し、367百万円となりました。約定弁済により、長期借入金が37百万円減少し、一方農園の新規建設等により資産除去債務が73百万円増加しております。

③純資産

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益により303百万円増加し、一方、第18期期末配当により56百万円減少し、1,716百万円となりました。

④キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間の現金及び現金同等物は前連結会計年度末から260百万円減少し、980百万円となりました。各活動によるキャッシュ・フローの状況と要因は以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期比81百万円増加の228百万円の収入(前年同四半期は146百万円の収入)となりました。これは、税金等調整前四半期純損益が前年同四半期と比較して196百万円増加し469百万円、減価償却費が前年同四半期と比較して19百万円増加し119百万円であったものの、売上債権の増加を主要因とした運転資本の増加が213百万円発生したこと及び法人税等の支払額が116百万円あったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期比281百万円増加の561百万円の支出(前年同四半期は279百万円の支出)となりました。これは、主に株式会社エスプールプラスの新農園建設と株式会社エスプールロジスティクスの品川物流センター新規開設等による有形固定資産の取得による支出503百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、72百万円の収入(前年同四半期は20百万円の収入)となりました。収入及び支出の主な内訳は、短期借入金の増加200百万円、長期借入金の返済による支出70百万円、配当金の支払額56百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間につきましては、主力の人材派遣サービス及び障がい者雇用支援サービスが牽引した結果、期初計画を上回り推移しております。また、今後につきましてもこれら主力サービスを中心に好調を維持することを見込んでおりますが、現時点では通期業績予想の修正を要しない水準で進捗していることから、2018年1月11日に公表いたしました2018年11月期通期連結業績予想については、変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,240	980
受取手形及び売掛金	1,565	1,838
商品	18	16
その他	144	112
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	2,969	2,947
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,026	1,357
その他(純額)	209	248
有形固定資産合計	1,235	1,605
無形固定資産	60	72
投資その他の資産		
その他	243	278
貸倒引当金	△15	△13
投資その他の資産合計	228	264
固定資産合計	1,524	1,942
資産合計	4,493	4,890
負債の部		
流動負債		
買掛金	106	121
短期借入金	900	1,100
1年内返済予定の長期借入金	141	109
未払法人税等	131	155
未払費用	764	839
賞与引当金	72	57
役員賞与引当金	18	—
その他	560	423
流動負債合計	2,695	2,806
固定負債		
長期借入金	103	65
資産除去債務	196	270
その他	23	31
固定負債合計	324	367
負債合計	3,019	3,173
純資産の部		
株主資本		
資本金	366	368
資本剰余金	216	218
利益剰余金	875	1,122
自己株式	△0	△0
株主資本合計	1,459	1,708
新株予約権	14	8
純資産合計	1,473	1,716
負債純資産合計	4,493	4,890

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2016年12月1日 至 2017年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2017年12月1日 至 2018年5月31日)
売上高	5,329	6,865
売上原価	3,916	4,986
売上総利益	1,412	1,879
販売費及び一般管理費	1,150	1,416
営業利益	262	463
営業外収益		
受取利息	0	0
助成金収入	6	8
その他	0	0
営業外収益合計	7	9
営業外費用		
支払利息	3	3
持分法による投資損失	0	—
その他	0	0
営業外費用合計	4	3
経常利益	265	468
特別利益		
違約金収入	27	—
新株予約権戻入益	—	4
特別利益合計	27	4
特別損失		
固定資産除却損	4	2
損害賠償金	14	—
特別損失合計	19	2
税金等調整前四半期純利益	273	469
法人税、住民税及び事業税	69	143
法人税等調整額	30	23
法人税等合計	99	166
四半期純利益	173	303
親会社株主に帰属する四半期純利益	173	303

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2016年12月1日 至 2017年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2017年12月1日 至 2018年5月31日)
四半期純利益	173	303
その他の包括利益		
持分法適用会社に対する持分相当額	0	—
その他の包括利益合計	0	—
四半期包括利益	173	303
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	173	303
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2016年12月1日 至 2017年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2017年12月1日 至 2018年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	273	469
減価償却費	99	119
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△2	△0
賞与引当金の増減額(△は減少)	11	△14
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△30	△18
受取利息及び受取配当金	△0	△0
支払利息	3	3
持分法による投資損益(△は益)	0	—
固定資産除却損	4	2
違約金収入	△27	—
損害賠償金	14	—
売上債権の増減額(△は増加)	△59	△272
たな卸資産の増減額(△は増加)	△4	2
仕入債務の増減額(△は減少)	△34	14
未払費用の増減額(△は減少)	18	74
その他	△58	△31
小計	209	347
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△3	△3
違約金の受取額	27	—
損害賠償金の支払額	△14	—
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△71	△116
営業活動によるキャッシュ・フロー	146	228
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△237	△503
無形固定資産の取得による支出	△26	△24
敷金及び保証金の差入による支出	△24	△39
敷金及び保証金の回収による収入	9	5
投資活動によるキャッシュ・フロー	△279	△561
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	100	200
長期借入金の返済による支出	△81	△70
新株予約権の行使による株式の発行による収入	31	0
配当金の支払額	△29	△56
財務活動によるキャッシュ・フロー	20	72
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△112	△260
現金及び現金同等物の期首残高	1,074	1,240
現金及び現金同等物の四半期末残高	962	980

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自2016年12月1日至2017年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ビジネスソリューション事業	人材ソリューション事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	1,745	3,583	5,329	—	5,329
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	2	7	10	△10	—
計	1,748	3,591	5,340	△10	5,329
セグメント利益	263	342	605	△343	262

(注) 1. セグメント利益の調整額△343百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△344百万円及びセグメント間取引消去0百万円であります。全社費用は、当社の管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自2017年12月1日至2018年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ビジネスソリューション事業	人材ソリューション事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	2,002	4,862	6,865	—	6,865
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	43	9	52	△52	—
計	2,046	4,872	6,918	△52	6,865
セグメント利益	410	483	893	△430	463

(注) 1. セグメント利益の調整額△430百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△394百万円及びセグメント間取引消去△35百万円であります。全社費用は、当社の管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。